

ねん がつ にち  
2023年4月23日

ふっかつせつだい しゅじつ  
復活節第3主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

しゅ ふっかつ ひ ゆうがた ちからづよ みちび とつぜん うしな で し こんらん  
主が復活された日の夕方、力強く導いていたリーダーを突然に失い、弟子たちは混乱  
していました。そのなかで、二人の弟子が、その混乱の現実<sup>こんらん げんじつ</sup>に背<sup>せ</sup>を向け、安心<sup>あんしん</sup>を求めてエ  
ルサレムを旅立ち、エマオへ向かっています。

ひげきてき で きごと ひ お こんらん ころろ ほんろう ふあん ひつよう  
悲劇的な出来事の引き起こす混乱に心が翻弄され、不安にとりつかれているときに必要  
なのは、落ち着いた振り返りです。イエスが何を教えてきたのか。何をあかししてきた  
のか。そしていま眼前<sup>がんぜん</sup>で起こっている出来事<sup>できごと</sup>を通じて、神は何を語りかけているのか。落  
ち着いて見つめ直し、より良い道を探し求めなくてはなりません。しかしこの日、弟子  
たちには、その心の余裕<sup>よゆう</sup>がありません。

ふたり で し みち い お できごと い み みずか き  
二人の弟子とともに道を行かれるイエスは、起こっている出来事の意味に自ら気がつく  
ようと、二人に辛抱強く耳を傾け、ともに歩きながら、その気づきを待ち続けます。

し とてきかんこく い きょうこう たい しんこう  
使徒的勧告「キリストは生きている」で教皇フランシスコは、イエスに対する信仰とは、  
イエスと出会って真の友情<sup>まのゆうじょう</sup>を深めること<sup>ふか</sup>として、こう指摘<sup>してき</sup>されます。

「イエスとの友情<sup>ゆうじょう</sup>は揺るぎないものです。黙<sup>だま</sup>っておられるように見えたとしても、この方<sup>かた</sup>  
は決してわたしたちを放<sup>はな</sup>ってはおかれませぬ。わたしたちが必要とするときにはご自分<sup>じぶん</sup>  
と出会えるようにしてくださり、どこへ行こうともそばにいてくださいます」(154)

ゆうがた みち ふたり で し とも あゆ しんぼうづよ みみ かたむ しゅ きょう  
あの夕方、エマオへの道で、二人の弟子と共に歩み、辛抱強く耳を傾けたように、主は今日  
もわたしたちと歩みを共にされ、辛抱強くわたしたちの叫びに耳を傾け、時のしるしを  
どのように読み解くのか、わたしたちが気づくように導きながら、いつも待つておられ  
ます。

ゆうじょう かた むす しゅ だま み  
わたしたちを友情の固いぎずなのうちに結びあわされた主は、「黙<sup>だま</sup>っておられるように見

えたとしても」、<sup>かなら</sup>必ず<sup>とも</sup>や共にいてくださる、<sup>あゆ</sup>ともに歩まれる。わたしたちはそう<sup>しん</sup>信じています。

この<sup>ねんかん</sup>3年間の<sup>さまざま</sup>様々な<sup>かつどう</sup>活動の<sup>せいやく</sup>制約が<sup>じょじょ</sup>徐々に<sup>てつぱい</sup>撤廃されているいま、<sup>たん</sup>単に<sup>かこ</sup>過去の<sup>もど</sup>あのときに<sup>ふ</sup>戻るのではなく、この<sup>たいけん</sup>体験から<sup>なに</sup>何を<sup>まな</sup>学ぶことができるのか、<sup>なに</sup>何を<sup>かみ</sup>神は<sup>かた</sup>語りかけているのか、<sup>かえ</sup>振り返って<sup>たいせつ</sup>みる<sup>きょうかい</sup>ことが大切<sup>とき</sup>です。なぜなら<sup>な</sup>教会は、<sup>な</sup>時の<sup>なか</sup>流れの中で<sup>た</sup>立ち<sup>ど</sup>止まらず、<sup>とき</sup>時の<sup>なが</sup>流れに<sup>さか</sup>逆らって<sup>かこ</sup>過去に<sup>もど</sup>戻るのでもなく、<sup>せいれい</sup>聖霊に<sup>みちび</sup>導かれて<sup>つね</sup>常に<sup>ぜんしん</sup>前進を<sup>つづ</sup>続ける<sup>かみ</sup>神の<sup>たみ</sup>民だからに<sup>ほか</sup>他なりません。

わたしたちは<sup>で</sup>弟子と<sup>あゆ</sup>ともに<sup>しゆ</sup>歩む<sup>すがた</sup>主の<sup>なら</sup>姿に<sup>たが</sup>倣い、<sup>みみ</sup>互いに<sup>かたむ</sup>耳を<sup>あ</sup>傾け<sup>たいわ</sup>合う<sup>とも</sup>対話と、<sup>みち</sup>共に<sup>あゆ</sup>道を<sup>しんぼうづよ</sup>歩む<sup>も</sup>辛抱<sup>おも</sup>強さを持つ<sup>かみ</sup>ものでありたい<sup>たまもの</sup>と思います。<sup>あた</sup>神から<sup>きょう</sup>いのちを<sup>きょう</sup>賜物として<sup>おも</sup>与えられた<sup>だい</sup>兄弟<sup>まい</sup>姉妹として、<sup>ゆうじょう</sup>友情の<sup>むす</sup>きずなで<sup>あ</sup>結び<sup>れんたい</sup>合わされ、<sup>さき</sup>連帯の<sup>あ</sup>うちに<sup>おも</sup>支え合いたい<sup>おも</sup>と思います。<sup>きょうかい</sup>教会<sup>い</sup>共同体<sup>しやかい</sup>こそは、<sup>げんじつ</sup>社会の<sup>なか</sup>現実の中で、<sup>かみ</sup>神との<sup>いっ</sup>一致と<sup>ぜんじんるい</sup>全人類の<sup>しんみつ</sup>親密な<sup>いっ</sup>一致の「<sup>しるし</sup>しるし<sup>どうぐ</sup>であり<sup>じかく</sup>道具である」という<sup>あら</sup>自覚を、<sup>おも</sup>新たに<sup>おも</sup>したい<sup>おも</sup>と思います。